佐賀大学 SAGA UNIVERSITY
理工学部 FACULTY OF SCIENCE AND ENGINEERING

令和元年 9 月 11 日

和久屋寛准教授・伊藤秀昭准教授らが 第 35 回ファジィシステムシンポジウムにおいて ポスター・デモセッション優秀発表賞を受賞

【概要】

電気電子工学部門の和久屋寛准教授が参加する医工連携研究グループ（本学理工学部・医学部他と久留米大学）の研究発表が、令和元年 8 月 29 日～31 日に大阪大学豊中キャンパスで開催された「第 35 回ファジィシステムシンポジウム」において、「ポスター・デモセッション優秀発表賞」を受賞しました。

【本文】

令和元年 8 月 29 日～31 日に大阪大学豊中キャンパスで「第 35 回ファジィシステムシンポジウム（FSS2019）」が開催され、電気電子工学部門の和久屋寛准教授が参加する医工連携研究グループの研究成果を報告しました。通常の口頭発表に加えて、希望者を対象としたポスター発表を行い、「ポスター・デモセッション優秀発表賞」を受賞しました。

本シンポジウムは、人工知能（AI）の一分野とも言われるファジィ関連技術を出発点とし、広く「あいまいさ」を取り扱う学術団体の年次大会であり、このたびは、本学理工学部電気電子工学部門教員（和久屋寛准教授・伊藤秀昭准教授）が、医学部の原めぐみ先生、保健管理センター（ダイバーシティ推進室併任）の荒木薫先生、久留米大学医学部の守屋普久子先生・森美穂子先生と共同で取り組んだ研究成果を、和久屋准教授が報告しました。

〇FSS2019 ポスター・デモセッション優秀発表賞

題　目：“SOM_PAK を用いたママさん医師のやる気スコア解析の試み”

発表者：和久屋 寛，守屋普久子，荒木 薫，森 美穂子，原 めぐみ，伊藤秀昭：

資　料：第 35 回ファジィシステムシンポジウム講演論文集，TG1-2（P9），pp.268-273, 2019.08（http://fss.j-soft.org/2019/）

【発表概要】

近年、日本では生産年齢人口の減少に警鐘が鳴らされており、この現象は、医学分野でも医師不足という形で顕在化しつつあります。そこで、この問題解消を目指し、第一線を退いた“ママさん医師”（子育て中または子育てを経験した女性医師）の現場復帰を支援する取り組みが注目されています。これまでに、医系教員が中心となってアンケート調査を実施し、今回、その調査結果を工系教員が「自己組織化マップ（SOM）」と呼ばれる AI 技術を用いて解析しました。SOM は、与えられたデータ群が有する潜在的な規則を学習によって自動的に発見し、それを一種の“地図”として可視化表現することに長けています。今回は、インター

ネット上に公開されている簡便なツール“SOM_PAK”を用いて解析したところ、医師人生の中で印象に残るライフイベントと、その時々で感じた主観的な“やる気のスコア”の関係性を可視化しました。

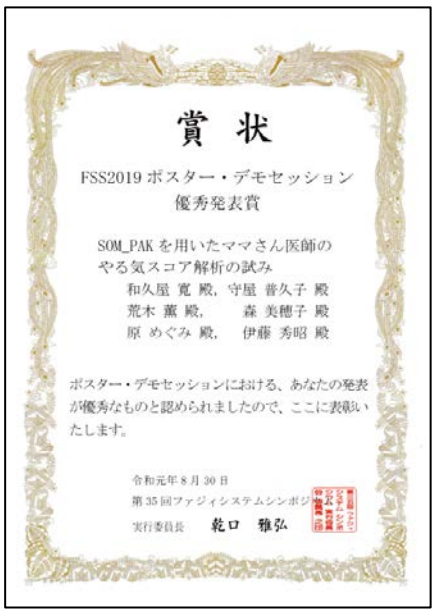
なお、このたびの受賞ですが、初日の夕方に開催されたポスター・デモセッションへの参加者が、18 件の研究発表に対して投票を行い、その得票数の多いものから順番に、最優秀発表賞の 1 件、優秀発表賞の 2 件を選出するものでした。

この研究は、まだ緒に就いたばかりであり、更なる検討が必要です。また、現在は 40 名程度の小規模アンケートですが、将来的には、もっと大規模なアンケート調査を実施し、その中で、“ママさん医師”の現場復帰を推進あるいは阻害する要因を見極め、それらを考慮した対応の検討により、復職を希望する“ママさん医師”たちの一助になればと考えています。

【追記】

和久屋准教授が佐賀市を出発したのは、ちょうど秋雨前線の停滞によって近隣に大雨を降らせた日の午後でした。当初は、学会参加も危ぶまれる状況でしたが、いくつかの幸運と、様々な人々の御支援によって、何とか会場へ辿り着くことができました。ここに、御礼を申し上げます。

受賞記念写真
FSS2019 実行委員長の乾口雅弘先生（左）と
和久屋寛准教授（右）



賞 状

FSS2019 ポスター・デモセッション
優秀発表賞

SOM_PAK を用いたママさん医師の
やる気スコア解析の試み
和久屋 寛 殿，守屋 普久子 殿
荒木 薫 殿，　森 美穂子 殿
原 めぐみ 殿，　伊藤 秀昭 殿

ポスター・デモセッションにおける、あなたの発表が優秀なものと認められましたので、ここに表彰いたします。

令和元年 8 月 30 日
第 35 回ファジィシステムシンポジ
実行委員長　乾口 雅弘

授与された賞状